

公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団 平成30年度事業計画

(平成30年4月1日から平成31年3月31日まで)

【目的】

横浜市ふるさと歴史財団は、横浜に関係した歴史の理解に資する国内外の資料や文化財の調査、研究、収集、保管及び公開を行うとともに、歴史や文化財に関する普及啓発を行い、先人たちのあゆみや積み上げてきた文化を市民共有のものとし、さらに次世代へ継承していくことで、ふるさと意識の醸成及び、市民文化の発展に寄与します。

【基本方針】

- 財団は、上記の目的に基づき、指定管理事業、埋蔵文化財センターや史跡管理などの文化財業務委託事業、市史資料委託事業、財団本部事業に一体的に取り組みます。
- 文化財行政の一翼としてこれまで果たしてきた役割を着実に継続していきます。
- 横浜に関係した歴史の理解に資する国内外の資料や文化財の調査、研究、収集、保存、保護に財団は一体的・継続的に取り組みます。また、埋蔵文化財の発掘を通し、遺跡や遺物の調査、研究、保存、保護に努めます。
- 文化財や歴史資料を活用し、調査・研究の成果を広く市民に発信しながら普及啓発に努めます。また、歴史資料の閲覧、歴史研究に関する助言及び指導などに努め、市民の学びを支えています。
- 市民協働、地域連携の事業を推進し、市民や地域に開かれた博物館を目指します。
- 学校連携を充実し、児童・生徒の学びを支えています。
- 横浜の歴史・文化や文化財を守り継承していくという財団の公益的使命を立ち位置とし、公益財団法人として公益性のある事業を展開すると共に、効果的・効率的な事業の展開ならびに経営力の向上を図りながら財団運営に取り組みます。

は じ め に

当財団が有する博物館機能、アーカイブ機能、発掘事業等に対する市民や横浜市から求められる役割や財団を取り囲む社会の目線は大きく変わりつつあります。

国は歴史的な建物や史跡などを観光資源などとしてより積極的に活用できるよう文化財保護法を改正します。

30年度は横浜市の新たな中期計画スタートの年でもあります。その中で東京2020オリンピック・パラリンピックを都市の飛躍に向けたチャンスと捉え、横浜の魅力アップや

活力の創出に繋げていくとしています。さらなるまちの賑わいづくりと集客の促進を目指すともしています。

こうした社会の動きに財団はしっかりと取り組んでいくことがますます求められています。

一方、30年度は市が外郭団体の適正な経営の確保を図るために各団体と締結する第5期協約マネジメントサイクルの初年度であり、市長の附属機関である横浜市外郭団体等経営向上委員会が財団の役割や特性を評価する年でもあります。

さらに、30年度は、「5館一括10年間」で託された第3期指定管理の3年目でもあり、事業計画では財団施設の連携(一体的な運営)に向けた基礎づくりの最終年度としています。

また、ベテラン職員の退職も続き円滑な事業継承に向けた人材育成も喫緊の課題です。

職員の高齢化による人件費の増加に伴う財務状況の悪化に対してもその改善に向け着実に取り組んでいかなければなりません。

より効果的・効率的な組織運営も進めていかなければなりません。

しかしながらこうした時こそ、財団職員が一体となって求められる使命に対し着実に取り組んでいかなければならないと考えています。個々の職員が創意工夫を重ね、専門職は積み重ねてきた調査・研究の成果を活かしながら、横浜の通史を担える唯一の団体として、地域や学校、企業等とも積極的な連携を図りながら着実に事業を進めていきます。

本年度の具体的な重点は次の通りです。

企画展および常設展の魅力創出

- ・積み上げてきた調査・研究を基に、これまでの取組から見えてきた成果や課題を生かし、企業や大学等との連携、関連イベント等、魅力ある企画展の創出と新たな魅力を引き出す常設展示を工夫。魅力発信のための効果的・戦略的広報を推進。
- ・明治150年、2020オリンピック・パラリンピックに向けた連携企画展等の準備

調査・研究の着実な取組

- ・横浜の歴史を市民に伝える基盤となる調査研究においては、学術的なつながりを幅広く持ち、一体的な調査・研究を継続して進める。また、大学・他機関等との連携による調査・研究を推進。

各館の安全・安心な施設管理と運営

学校・地域・企業等との連携・協働の推進

市民協働の推進

博物館の魅力を伝える賑わいの創出

- ・より多くの方に博物館の魅力を伝えるために、開港記念日や地域のイベント、市や区・関連団体のイベントと連動した企画や夜間開館、各館の開館祭等の実施により賑わいを創出。

歴史と文化の継承のための歴史施設が持つ役割が明確化できる評価の検討

- ・定量的評価・定性的評価双方の評価を行い、今後の事業の充実につなげる。

- ✚ より実効性のある自己申告制度の実施
- ✚ 予算要求制度の定着とより計画的な予算執行・事業執行

各館がそれぞれの歴史と実践を踏まえ進めてきた取組を、その良さを継承しつつ、財団全体で情報を共有し、柔軟な発想と多様な連携を図りながら一体的に事業に取り組んでいきます。

***新規事業、重点的に取り組む事業については、ゴシック文字で表記しています。**

I 財団本部事業

< 運営方針 >

財団本部は、ふるさと歴史財団が担う使命を財団職員、財団各施設が一体となって遂行していけるよう、公益財団法人として、指定管理者として、市外郭団体としての立場をふまえ、運営の方向性を明確に示しながら各施設と連絡調整を行い、財団全体として事業を推進していきます。

また、人材育成を着実に進められるよう、効果的な研修を実施していきます。

財団運営の適正な執行にあたり、理事会・評議員会の開催、神奈川県への報告等を行うとともに、諸会議の運営、コンプライアンス制度の適切な運用、人事労務、財務、その他本部事務を執行し、円滑な財団運営を図っていきます。特に本年度より本格的に行う予算要求制度に基づき、財団の一体的な取組・連携が図れるよう適切に予算編成、執行管理を行っていきます。

各施設の老朽化や災害への対応については、施設の維持管理・来館者の安全を図るよう、所管局と協力し、継続して取り組んでいきます。

1 財団本部事業（定款第4条第1項第3号）

上記の方針に基づき、以下の事業を行います。

（1）円滑な組織運営

- ① 人材育成を着実に進める効果的な研修の実施
- ② 職員が自らのキャリアパスを意識できる自己申告制度の実施
- ③ 役員会、経営会議等の諸会議の開催、規則整備

（2）財団人事・労務・財務の管理

- ① 職員の採用、異動等雇用管理
- ② 就業規則他諸規則の整備及び運用
- ③ 給与、社会保険、税金関係等
- ④ 定期健康診断の実施等による安全・衛生管理、福利厚生施策
- ⑤ 職員メンタルヘルスの支援

- ⑥ 一体的な取組、連携等を考慮した予算編成・管理・決算
- ⑦ 寄附金・協賛金獲得の企画調整

(3) 予算編成と執行管理

予算要求書の考え方を財団全体で共有し、各館、横断的事業、連携事業、全体に関わる事業など、予算編成を計画的、戦略的に進める。

(4) 災害対応

- ① 防災訓練の実施、改善
- ② 帰宅困難者一時滞在施設（歴史博物館）としての対応

(5) 理事会・評議員会の開催

- ① 定期開催
- ② 神奈川県への報告

(6) 所管局への報告・調整

(7) 共同広報の実施

- ① 財団ホームページの管理
- ② 財団メルマガの発行

(8) 情報システムの管理

- ① 情報システム機器（ソフトウェア等を含む）の保守・管理
- ② 情報セキュリティに関する啓発・研修
- ③ 財団内システムの更新〔31年度より〕に向けた準備

(9) 事業推進

30年度は、第3期10年間の基盤づくりの段階であることから、事業推進担当を置き、事務局長以下、総務課長、事業推進担当課長、事業推進担当係長がチームとして整理・提案し、課長会で議論しながら組織内の調整を図り、幅広い情報や意見を得ながら事業を進めていきます。

- ① 事業戦略の共通認識を図る
- ② 財団内での多様な連携で取り組む「連携事業」の推進
 - ・ **明治150年**、2020オリンピック・パラリンピックに向けた連携企画展等の準備
- ③ 財団の役割や存在及び、財団事業を伝える効果的な広報戦略
 - ・ 昨年度検討された企画展PDCAを拠り所に、成果や課題を生かした事業の推進
 - ・ 横浜市新採用教員研修支援事業への取組
- ④ 市民協働の推進
- ⑤ 評価軸の検討

(10) エducator事業（学校連携）の実施（詳細は各施設の項目にて記載）

- ① 学校連携による財団各施設の利用促進の強化、拡充
- ② 教育委員会、小・中学校社会科研究会及び財団で主催する教職員研修の企画・調整・運営
- ③ 「小学校博物館利用研究会」「中学校教材開発研究会」企画・調整・運営
- ④ 学校の社会科を中心とした授業改善に向けての協力・連携・支援
- ⑤ **訪問授業の企画・調整・運営**
- ⑥ 授業改善のためのアンケート実施と検証
- ⑦ **子どもの学びのための資料作成**

Ⅱ 指定管理事業

< 運営方針 >

第3期指定管理においては、3年、5年、10年の見通しをもった目標設定を行い、事業運営をしていきます。本年度は第3期指定管理3年目として、昨年に引き続き「5館一括10年」の基盤づくりの完成期として位置づけ、事業を進めていきます。

財団各館のこれまでの歴史と役割を十分に生かしつつ、それぞれの施設の強みを生かし、柔軟な発想と多様性を生み出しながら、一体的に、魅力的な事業を実施していきます。また、その実現を支える組織の構築と運営を行っていきます。

1 財団全体としての取組及び事業

1 柔軟な発想と多様性を生み出す連携

◇共同研究による調査・研究

市民の幅広い興味や関心に応えられるよう、昨年度に引き続き、各館の専門職が連携し、同じテーマに共同で取り組むなど、横断的な調査・研究に取り組みます。また、共同研究により、横浜の新しい「通史」を描いていく研究の基礎を構築します。

◇魅力的な企画・展示・講座・出版

アンケート調査やこれまでの企画展の振り返りを活用し、幅広い年齢層や興味・関心等、市民のニーズに応える工夫に取り組みます。共同研究を基にした企画展、地域イベントなどまちの賑わいと連動した取組、多様な組織と連携した多彩な取組、歴史講座、各館情報冊子など、歴史の魅力と博物館の魅力を演出していきます。

◇地域への貢献

区や地域では、区周年行事や町の活性化イベント、生涯学習講座など、歴史を通してまちづくりやふるさと意識を大切にする取組が行われています。高い専門性と歴史的視点から協力依頼される区、市の取組も多く、各取組が充実するよう、財団の専門性を活かし、積極的に地域への貢献を行っていきます。

◇多様な組織との連携

多様な組織と連携・協力することにより、財団の高い専門性を活かすとともに博物館の魅力を伝えていきます。博物館の魅力が増す試みとして、企業連携や他施設との連携にも柔軟な発想で取り組んでいきます。

◇「開港記念日」の演出（市民優待デー）

「開港記念日」の無料開館や多彩なイベントを今年度も継続して行います。「市民優待デー」として位置付け、横浜ならではの「開港記念日」（6月2日）を盛り上げていきます。

◇夏休みにおける子どもの学びの場の提供

学校を離れて家庭に戻る夏休みの子どもたちのために、体験活動やイベントを実施するとともに、常設展示や企画展示を通した学びの場を提供します。

これまで各館が取り組んできたことを基に、財団の組織力を生かし、協力・連携して取り組みます。

★別表参照

2 活力ある、魅力的な組織への取組

◇横断的研究の継続

財団内の人材交流を活性化し、調査研究を充実させるために、各施設の職員が協同で行う横断的研究を今年度も継続して行います。また、ここで得られた研究成果を、今後の連携展示・連携企画に反映できるようにします。財団が目指す横浜の新しい通史を描く「研究の基礎となる体制」の構築に繋がる取組でもあります。

◇人材育成の充実

職員一人ひとりの資質向上を図るとともに、財団全体で魅力ある事業を組織的に進めていけるよう、研修を充実させます。昨年度見直した研修計画を基に、中長期的な視点で人材育成を図る研修体系を構築し、実施していきます。

★別表 【多様な組織との連携および地域への貢献 30 年度（予定）】

連携	連携先	中心となる施設	内 容
区・地域との連携	中区	開港資料館 都市発展記念館 市史資料室	・ 中区歴史の散歩道執筆
	中区	開港資料館 都市発展記念館	・ 中区広報に連載執筆
	都筑区	歴史博物館 開港資料館 ユーラシア文化館 三殿台考古館 埋蔵文化財センター	・ 平成 31 年刊行予定「図説 都筑の歴史」 ・ 都筑区主催の「郷土講座」を共催 ・ 都筑図書館とのコラボ企画
	神奈川区	歴史博物館	・ 区制周年記念への協力（昨年度より継続）
	保土ヶ谷区	歴史博物館	・ 区制周年記念への協力
	磯子区	三殿台考古館	・ 区内の市民利用施設が企画するゴールデンウィーク企画（「いそっぴゴールデンウィーク 2018 スタンプラリー」）への参加。
	金沢区	歴史博物館 埋蔵文化財センター	・ 歴史協定による連携事業、金沢図書館での展示 ・ 博物館デビュー事業による活動の拡大 ・ 区制周年記念への協力
	栄区	埋蔵文化財センター	・ 栄図書館との連携事業 ・ 区民文化センター・地区センタートの連携 ・ 区職員研修の協力
市との連携	市主催研修会	都市発展記念館 開港資料館 ユーラシア文化館 市史資料室	・ 局主催の研修会への協力 （企画展を活用して） ・ 市新採用職員研修での講話
	新市庁舎	都市発展記念館 埋文センター	新市庁舎で屋外展示される遺構の解説版作成への協力

	各局	全施設	<ul style="list-style-type: none"> ・市で開催されるイベントへの協力 ・館内展示、展示パネル作成等 ・寄稿
教育委員会との連携	指導企画課 方面教育事務所 ハマアップ	全施設	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業づくり講座」等職員向け研修への協力 ・教材研究資料として財団作成資料・図録を配架 ・教員研修会案内
	教職員育成課	全施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 横浜市新採用教員研修支援事業 （新採用教員への施設無料パス配布） ・ アイカレッジでの研修講師、施設見学 （教員として横浜の歴史を学ぶ）
	高校教育課	ユーラシア文化館 開港資料館	<ul style="list-style-type: none"> ・ グローバル人材育成 ・ 海外大学進学支援プログラム
	生涯学習文化財課	全施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもアドベンチャーへの協力 （夏休み期間中）
市・区研究会との連携	社会科研究会 （市・区）	全施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員研修講師、施設見学 ・ 教材研究用資料案内 ・ 小学校博物館研究会（再開） ・ 中学校教材開発研究会（再開）
学校連携	小学校	全施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史学習・社会見学・展示見学の受入 ・ 学芸員、エデュケーターによる訪問授業
	小・中・特支学校 地域コーディネーター	歴史博物館	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校の歴史資料室の活用
	中学校社会科 研究会	歴史博物館	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会科研究の展示発表（企画展示室）
	神奈川県高等学校 文化連盟	開港資料館	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会科クラブの生徒への研修・指導 ・ 県大会の後援、協力〔開港資料館にて開催〕
	近隣小学校	三殿台考古館	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校の地域交流クラブ・総合的な学習の時間等への支援
	職業体験受け入れ	全施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校 2 年生を中心としたキャリア教育への協力
他館との連携	県立博物館等	歴史博物館、開港資料館等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査研究 ・ 企画展での協力
市民団体との連携	地域歴史散策	埋蔵文化財センター	<ul style="list-style-type: none"> ・ 栄地域史研究会と連携して、地域の遺跡や由緒ある寺社を見学・散策。
	活動支援ボランティア	都市発展記念館 ユーラシア文化館	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動支援ボランティアと連携して、企画展開催時の土・日にワークショップを開催。
大学連携	大学等	ユーラシア文化館 歴史博物館	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学と連携・協力による研究・展示 ・ 早稲田大学會津八一記念博物館と連携・協力 ・ 神奈川大学との連携
	大学学外研修	ユーラシア文化館	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学の東洋史専攻の学生の課外授業に対応：資料熟覧・展示解説など
市民協働	横浜郷土史団体 連絡協議会	歴史博物館 開港資料館 都市発展記念館	<ul style="list-style-type: none"> ・ 協議会の事務局を務め研修や協働事業を実施 ・ 全国大会（H30 年度開催）に向けた準備

	歴博もりあげ隊	歴史博物館	博物館をバックアップする市民団体であると協力し、講座等のイベントを実施していく。
	市民ボランティア	歴史博物館	〈展示解説ボランティア〉 大塚遺跡を始めとする博物館野外施設および常設展示室の解説を行う。 〈活動支援ボランティア〉 体験学習室における集客イベントでの活動、また随時所蔵資料の調査活動
	縄文土器作りの会	歴史博物館	・学校からの要請に応じ、出張土器づくり指導を実施する。 ・縄文土器を紹介する作品展を開催するほか、会の活動について広報を行う。
	古文書を読む会	歴史博物館	所蔵資料を中心に古文書の翻刻をおこない、当館の出版物にその成果を発表する。
	古代資料を読む会	歴史博物館	歴史を学ぶ一般の方へ向けた講座や講演会などを企画・実施する。
	さいかちの会	歴史博物館	講座や史跡の見学実習などの展示解説ボランティアのスキルアップに資する事業や研修を実施する。
地域連携	タウンセンター活性化検討会	歴史博物館	・センター南・北の活性化企画や催しの実施
	日本大通り活性化委員会	都市発展記念会 ユーラシア文化館	・日本大通り周辺の事業所が連携し、活性化企画や催しの実施
	国際フェスタ参加	ユーラシア文化館	・「よこはま国際フェスタ」に参加し、イベントブースを設置。
	NPO 法人都筑民家園管理運営委員会	歴史博物館	・グローバル化や国際化の要請に向けた文化イベント（「都筑・遺跡公園・民家園アート月間」）の連携実施～「日本を知ろう」～ ・公園活性化への取組
	新聞博物館・放送ライブラリー	都市発展記念会 ユーラシア文化館	横浜情報文化センターの2施設との広報やイベントなどの事業連携
	首都圏形成史研究会	開港資料館	第69回地方紙研究協議会大会 （平成30年10月開催予定）
企業との連携	富士ゼロックス(株) アサヒグループ食品(株) 富士茅葦建築 茅吉等	歴史博物館 開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館	・企画展における最先端の展示手法の実験（さくらやジオラマ） ・企画展の関連事業の実施 ・「日本を知ろう～茅葦屋根体験～」

2 歴史博物館事業

< 運営方針 >

歴史博物館は、開港に至るまでの市域の歴史を「人々の生活」の視点から解明し、市民が「ふるさと横浜」の歴史と文化に親しみ、学ぶことができるよう努めます。同時に、市民の歴史・文化に求めるニーズの多様化やグローバルな視点から横浜の歴史を普遍化する要望などに、柔軟に対応していきます。

調査研究では市民との協働による研究を3つ、また財団施設間連携の研究を4つ実施します。市民協働や施設間連携の利点を活かしつつ、これらの研究成果は企画展などの事業に繋げ、市民に還元していきます。

企画展事業では、春には来館する学校団体を対象にした「横浜発掘物語」展、夏期には明治150周年の企画「戊辰の横浜村々の幕末維新」（仮題）、秋期には「寄木細工 アート & ヒストリー」（仮題）、冬期に「平成30年度横浜市指定・登録文化財展」「神奈川の記憶展」（仮題）、「東国の牧と馬展」（仮題）を実施します。

常設展事業では、解説ボランティアの活動をより充実させるとともに、ミニ展示の開催、学芸員トークの実施などにより、市民・区民へ地域の歴史に興味を持っていただく機会を広げていきます。

この他、学校団体利用促進のための月曜日臨時開館、市の有形民俗文化財に指定された街頭紙芝居（複製）上演、「開港記念日」や感謝デーにおける各種集客イベントの実施などを実施し、市民サービスの向上と館の活性化に努めていきます。さらに、今年度は市域や市民との協働事業を増やすとともに、都筑区や青葉区、金沢区の文化事業への参画や協力、NPO法人との遺跡公園活性化事業、大学や民間事業者との企画展示室における実験的企画等を実施し、当館の活動の場を多様な繋がりの中から広げていきます。

開館後23年を経て、常設展示室の内容や機器類、遺跡公園や施設・設備等の老朽化が進んでおり、常設展示のリニューアルの検討を進めると同時に、安全を優先する適切で施設の維持・管理にも取り組んでいきます。

また、平成25～29年度に文化庁文化芸術振興費補助金を得て実施した「学校内歴史資料室を活用した博物館デビュー事業」の終了を受け、オリンピック・パラリンピックに向けた観光・文化プロジェクトを念頭に置き後継事業を進めていきます。

1 資料収集保管事業（定款第4条第1項第1号①）

博物館の基幹となる事業である寄贈資料の受入をはじめ積極的に資料の収集を進めていきます。

（1）資料の収集

項 目	目的・意図
寄贈・寄託資料の受入	資料の保護と活用の観点から資料を受け入れる。
実物資料の購入	企画展・常設展での展示をはじめ、体験学習室等、博物館活動で使用する資料を収集する。
レプリカ製作	市域にかかわる資料の複製等を行う。
マイクロ撮影	市域にかかわる歴史資料のマイクロフィルム化を行う。

(2) 資料の修繕

資料の保全の観点から必要な修復を行う。

(3) 資料の保存

収蔵庫へ納める資料については二酸化炭素などを利用した燻蒸を行い、また I P M の手法による定期的な環境検査を実施して資料の保存環境の維持を図る。

(4) 資料の整理活用

歴史博物館等で保管する考古・歴史・民俗資料の整理を進める。また収蔵資料および展示資料のデジタル写真の撮影と整理を進める。また過去に撮影して保管しているフィルムについては、順次デジタル化を進める。

(5) 図書資料の公開

図書文献を収集して整理を進め、図書閲覧室で公開する。

(6) 画像資料等の貸出

画像資料等を有料で貸出し、資源の活用を図る。

2 調査研究事業 (定款第4条第1項第1号①)

(1) 調査研究

博物館活動の原資となる調査研究は、基礎資料研究・テーマ研究・市民協働研究の3分野を設定し、継続的かつ計画的に進めていく。

項 目	目的・意図	今年度の成果目標
基礎資料研究		
横浜市域貝塚の研究 (3/3年次)	横浜市域には、縄文時代から近世に至る多数の貝塚があるが、自然遺物についてはその分量が膨大なため、未整理・未報告に終わっている場合が多い。これらの未報告資料の中から研究上重要なものについて、基礎整理作業を行い、報告する。	本年度はこれまでの成果に基づいて論文を執筆するほか、弥生時代の貝塚をとりあげ、埋蔵文化財センターに保管されている上台北遺跡(鶴見区)などの未報告資料の整理と分析を行う。
横浜市内の後期旧石器遺物の研究(3/3年)	横浜市内南部の後期旧石器時代の遺跡について、河川流域ごとに出土資料の実見を中心とした調査を行い、石器群の様相を明らかにする。	本年度はこれまで概観した横浜市内南部の後期旧石器時代遺跡の様相と、周辺地域、特に境川右岸の後期旧石器時代石器群の様相の比較を試みる。
上矢部富士山古墳出土埴輪の研究(3/3年次)	当館収蔵の横浜市指定文化財、上矢部富士山古墳(戸塚区)の未整理破片について、調査時の図面や写真と対照し、個体の同定を試みる。可能なものについては注記・接合を行い、分類・復元・図化を行なう。最終的には個体の特徴を抽出し、同古墳埴輪を改めて概観する。	本年度は注記・接合・復元作業の継続および台帳作成を行う。 朝日新聞文化財団の文化財保護助成の2年目に入る。事業としては同財団助成の3年目に当たる来年度に報告書を取りまとめ完了する予定である。

市域所在の中世資料の調査（3／3年次）	本調査研究では、昭和50年代以来行なわれていない市域中世資料の再確認を実施するとともに、その他市域に所在する古文書・金石文等の中世資料を概観し、調査と撮影をすることを目的とする。	昨年度まで博物館で調査をすすめている「関家文書」「岸家文書」を引き続き継続し、まだ調査を行っていない他家文書に関しても実見・撮影を行う。また必要に応じて所蔵者に対し、保存に関するアドバイスをしていく。
横浜市指定・登録民俗文化財に関わる調査研究（3／3年次）	横浜市指定・登録の民俗文化財を伝承してきた地域について民俗調査を実施し、伝承母体と地域性などを明らかにする。	本年度は、文化庁の文化遺産を活かした地域活性化事業を申請・活用しながら、都筑区荻根に伝わる指定文化財「廻り地蔵」を伝承する地域の調査を実施する。
テーマ研究		
横浜 市域の牧の研究（3／3年次）	現在の横浜 市域には、武蔵国立野・石川両牧が存在したとされている。これらの牧を中心に、関東近県の古代の牧について研究し、古代の牧をめぐる地域社会の動向を明らかにする。	本年度は古代武蔵・相模を中心とする関東近県の馬匹生産と馬の利用に関わる資料を調査し、平成31年1月から3月に開催する「古代東国の牧と馬（仮題）」において成果を公表する。
幕末維新期の政局と横浜の村々の研究（3／3年次）	幕末～明治初年における、市域の村々に関する古文書などの資料を分析し、当該期の横浜の人々と政局や権力との関わりを考える。	戊辰戦争期の市域村々の実態について、新政府軍通行や武州金沢藩、上野戦争、天皇東幸などのテーマからまとめる。昨年度までの調査研究内容も踏まえ、成果は企画展にて公開する。
近世後期の横浜 市域と「外圧」の研究（2／2年次）	江戸時代後期の横浜 市域が外国からの影響（「外圧」）をどのように受けていたのか、という課題について横浜 市内外に所蔵される資料から分析する。	本年は明治150年にあたることから、横浜の外国人の存在がどのような影響を日本・横浜を及ぼしたのか、という課題を明治元年（1868）にしばって検討する。成果は横浜開港資料館の展示等で公開する。
学校内歴史資料室に関する研究（3／3年次）	平成25年度から実施している「博物館デビュー支援事業」で進めている学校内歴史資料室の資料整理の成果を活用しながら、学校内歴史資料室の資料所在状況を明らかにする。	文化庁の補助事業は平成29年度で終了し、一定の成果を得た。今年度は明らかになった資料所在や学校内歴史資料室に関する情報をまとめ、刊行物等で報告を行う。
市民協働調査研究：市民とともに調査研究を行う		
土器の実験考古学的研究（3／3年次）	市内出土の土器について、 横浜縄文土器作りの会 の協力を得ながら観察と製作・使用実験などを行い、先史時代の土器利用について研究する。	本年度も引き続き、大塚遺跡出土の宮ノ台式土器の製作実験と使用実験を行い、データの蓄積を進める。その成果は紀要などにて公開する。
武州金沢藩目付日記	当館で所蔵する武州金沢藩の目付の	明治2年の目付日記を解読し、活字化

の研究（3／3年次）	公用日記（慶応4年～明治3年）の記載内容の分析。 横浜古文書を読む会 とともに解説を行い、活字化する。	する。成果は紀要に掲載し、明治初年の武州金沢藩やその藩士の動向を具体的に示すまとまった資料を広く市民に公開する。
市民協働民俗調査（3／3年次）	昨年度新たなメンバーを加えた民俗に親しむ会 とともに、鶴見川の支流である恩田川流域のフィールドワークを行なう。	恩田川流域のフィールドワーク を継続して実施し、鶴見川との合流点である緑区の落合橋を目指す。

（2）連携調査研究

複数の時代・分野に関わるテーマについて、当財団が管理する諸施設との連携研究を実施する。
また平成30年度に開港資料館と連携して開催を予定している明治維新150周年関連企画展に向け、前出のテーマ研究を実施する。

施設間の連携による研究		
大塚遺跡の水田に関する研究（2／2年次）	神奈川県では弥生時代の水田遺構が確認された事例はなく、大塚遺跡も同様である。本研究では 三殿台考古館・埋蔵文化財センターと連携 し、水田遺構に関する先行研究や他地域の事例などを検討し、大塚遺跡における水田の位置を推定する。	本年度は昨年度にボーリング調査で採取したボーリングコアの分析を行う。
ユーラシア概念をめぐる研究（3／5年）	ユーラシア文化館と連携 して、日本の古代から中世世界を包括する東部ユーラシア世界の研究を進める。	年に3回ほど財団内外の研究者の研究発表会を開催し、東部ユーラシア世界の理解を深め、共同企画展などの可能性を模索する。
昭和期の横浜の都市生活に関する調査研究（3／3年次）	都市発展記念館と連携 し、昭和期の横浜に在住した庶民の日記を分析することによって、戦前・戦中・戦後混乱期の横浜の都市生活の様相を明らかにする。	磯子区の時計店に勤務していた青年の日記（下平政熙日記）を分析し、今年度は戦中期（昭和15～19年）横浜の都市生活の具体的様相を検討する。成果は紀要等で報告する。

（3）企画展開催にともなう調査研究

来年度以降に予定する企画展・特別展の準備のために他の機関・施設への資料調査などを実施する。

3 常設展事業（定款第4条第1項第1号②）

- （1）展示物やビデオ機器類の保守点検、部分的な展示替えをふくむ維持管理、また修繕等を行う。
- （2）常設展示室の構造と特色を生かして、来館者の満足度を高めるための事業を行う。
 - （ア）ミニ展示：特設コーナーを設置して、収蔵資料等を展示紹介する「ミニ展示」を実施する。必要に応じ学芸員が解説を行う。
 - （イ）ボランティアによる常設展示解説：常設展の解説ボランティアによる学校団体をはじめ来館者への展示解説を行い、展示理解の向上に努める。

- (ウ) 市内小中学校教員を対象にエデュケーターが展示を教材とした授業例を実演する。
- (エ) 小学3・4年の社会科学習に対応するテーマ(「昔のくらし」や「吉田新田」等の郷土史学習)に関連する常設展示・ミニ展示について、来館した小学生を対象にエデュケーター・展示解説ボランティアが解説を行う。
- (3) 各展示室内の部分的なリニューアルを検討する。また歴史劇場は内容の古さに加えて機器の老朽化のため、早急な改修が必要な状況であり、劇場の改修と利用方法について検討する。

4 企画普及事業(定款第4条第1項第1号②)

(1) 企画展・特別展

本年度は4月には初めて歴史を学ぶ小学校6年生を主な対象とした「横浜発掘物語 2018ー」、夏期に明治150周年企画「戊辰の横浜村々の幕末維新」(仮題)、秋期に「寄木細工 アート&ヒストリー」(仮題)、冬期に「平成30年度横浜市指定・登録文化財展」「神奈川の記憶展」(仮題)、「東国の牧と馬展」(仮題)を実施する。

事業名称(仮題)／開催期間	目的・意図、実施内容
企画展「君も今日から考古学者！ ー横浜発掘物語 2018ー」 平成30年4月7日(土) ～7月1日(日)	発掘調査や考古資料から昔の人の生活を読み解くのが考古学について、その方法や成果を分かりやすく紹介する。また、 実物資料に触れる、考古資料に関係した体験を展示に盛り込むなど、来館者が考古学を身近に思える展示を試みる。同時に埋蔵文化財センターの遺跡展を開催する。 対象：小6以上・一般
明治150年企画展「戊辰の横浜 村々の幕末維新一名もなき民 の慶応四年一」(仮題) 平成30年7月21日(土) ～9月9日(日)	明治150年にちなんだ企画展。慶応4年(明治元年、1868)に起きた戊辰戦争の時、横浜市域の村々では何が起こったのか。その実態を探る。開港資料館との連携企画 対象：一般
企画展「寄木細工 アート&ヒストリー」(仮題) 平成30年9月22日(土) ～11月11日(日)	江戸時代から静岡や箱根で製作され、明治期には西洋に輸出された寄木細工について、金子皓彦氏所蔵コレクションを中心に紹介する。対象：一般
「平成30年度横浜市指定・登録文化財展」「神奈川の記憶展」(仮題) 平成30年11月23日(金・祝) ～平成31年1月14日(月・祝)	横浜市の指定・登録文化財を、新年度に新たに加わった文化財を中心に紹介する。合わせて朝日新聞の連載記事「神奈川の記憶」に関連するパネル展を実施する。 対象：一般
「東国の牧と馬展」(仮題) 平成31年1月30日(水) ～3月21日(木・祝)	古代の横浜市域には朝廷直轄の馬牧が存在したと考えられている。古代の東国における馬の生産と、交通・通信をはじめとする諸分野での馬利用の様相を紹介する。 対象：一般

(2) 講座・講演会

項 目	目的・意図
-----	-------

特別講演会	横浜の歴史や文化をテーマとし、各界の専門家を講師に迎えて特別講演会を行う。平成31年1月下旬
実験考古学講座	港北ニュータウン地域内で出土した縄文時代の土器をモデルに製作する講座。市民協働の一環として、専門職員と横浜縄文土器づくりの会とが指導にあたる。全5回。関連事業として土器づくり教室作品展を開催する。
関連団体との協働歴史講座	当館の関連団体と協働で随時歴史講座を開催する。

(3) 普及体験

項 目	目的・意図
体験学習室	活動支援ボランティアの協力を得て「作る」ことを中心とし、当日持ち帰ることが可能な作品をつくるワークショップ「れきし工房」を実施する。
ワークショップ「れきし工房プラス（仮）」	野外施設の工房や体験広場等で、ゲスト講師を招き、楽しみながら歴史に触れるワークショップ「れきし工房プラス（仮）」を開催する。横浜の土偶、そめもの、和風、紙すき等を実施。
竪穴住居に泊まろう	遺跡公園の復元住居に家族単位で宿泊してもらい体験事業を実施し、竪穴住居や弥生時代の生活についての理解を深め、博物館や史跡管理についての理解を深めてもらう。
実験考古学講座作品展	実験考古学講座の作品展を開催するとともに、土器づくりの過程を展示する。
「子どもアドベンチャー2018」への参画	横浜市が取り組んでいる、児童を対象とした夏休み企画へ参画する。



竪穴住居に泊まろう



親子向けフロアレクチャー

(4) 集客イベント等

項 目	内 容
ラストサタデープログラム	毎月最終土曜日を「ラストサタデー」と位置付け、常設展示室やエントランスホールなどを使って各種イベントを開催する。
「開港記念日」市民優待デー	開港記念日を祝し、当日を全館無料とし、常設展示室（近現代）で、横浜開港を中心とした展示解説やイベントを実施する。
エントランスホールコンサートの	歴史博物館をより身近なものとして利用していただくため、外部

実施	文化団体と協働で博物館エントランスを会場にコンサートを数回開催する。
都筑区民祭り連動イベント	文化の日に実施される都筑区民祭りと連動して、全館を無料としイベントを実施する。
遺跡オーガニックマルシェ	遺跡公園を会場に自然栽培、オーガニックのお野菜や食材のマルシェを開催する。11月予定
博物館感謝デー	1月31日の開館記念日にあわせ、直近の土・日曜を中心に全館無料とし、各種行事を実施する。
センター北まつり連動イベント	3月に実施されるセンター北祭りと連動して全館を無料としイベントを実施する。
街頭文化祭	各種全館無料デーに合わせ、紙芝居やパフォーマンスといった街頭で行われていた大衆芸能を実施し、新たな客層の集客を図る。
おもしろいぞ！紙芝居	横浜市の有形民俗文化財に指定された当館所蔵街頭紙芝居を活用し、ラストサタデープログラムの一環として複製した紙芝居を実演する。

(5) 市民協働

項 目	内 容
ボランティアの活用	<p>〈展示解説ボランティア〉</p> <p>市民ボランティアにより、大塚遺跡を始めとする博物館野外施設および常設展示室の解説を行う。学校団体を始めとする来館者の展示理解を深めると共に、遺跡の解説との一体的サービスにより、館全体の活性につなげる。</p> <p>〈活動支援ボランティア〉</p> <p>体験学習室でのワークショップ、学校団体見学時の体験コーナー、ラストサタデープログラム等の集客イベントでの活動、また随時所蔵資料の調査活動に協力いただく。</p>
横浜郷土史団体連絡協議会との連携	開港資料館と共に横浜郷土史団体連絡協議会の事務局を担当し、連携して各種の事業を実施する。
横浜歴博もりあげ隊との協働	博物館をバックアップする市民団体である「横浜歴博もりあげ隊」と協力し、講座等のイベントを実施していく。大人向けの講座のほか、ミュージアムショップで販売している「あじろ編み小物入れ」などのものづくりワークショップを実施する。
横浜縄文土器づくりの会との協働	<ul style="list-style-type: none"> ・学校からの要請に応じ、「横浜縄文土器づくりの会」との協働で出張土器づくり指導を実施する。 ・会員が製作した縄文土器を紹介する作品展を開催するほか、会の活動について広報を行う。
古文書を読む会との協働	古文書解説教室の修了者が中心となって活動する「横浜古文書を読む会」と連携し、所蔵資料を中心に古文書の翻刻をおこない、

	当館の出版物にその成果を発表する。また所蔵資料の整理活動への協力体制を準備する。
古代史料を読む会との協働	古代史講読講座の修了者が中心となって活動する「古代史料を読む会」と連携し、歴史を学ぶ一般の方へ向けた講座や講演会などを企画・実施する。
さいかちの会との協働	展示解説ボランティアのOBや現役が中心となって活動する「さいかちの会」と協力し、講座や史跡の見学実習などの展示解説ボランティアのスキルアップに資する事業や研修を実施する。

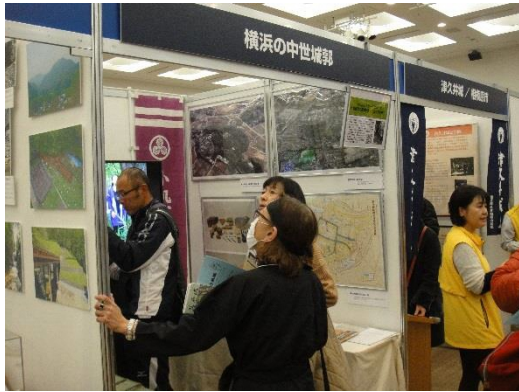
(6) 学校連携

項 目	内 容
博物館利用の促進	エドゥケーターを中心に、児童生徒向けテキスト・教員向けテキストを活用し、学校の博物館利用を促進する。教員を委員とする「小学校博物館利用研究会」、「中学校教材開発研究会」を再開し、 小中学校との連携の強化を図る。 ・学校団体受付拡充のため、4・5月の月曜臨時開館を実施する。 ・導入した学校団体予約システムを運用し、受け入れ機能の強化を図る。
訪問授業・展示解説授業	昔のくらし・吉田新田などの社会科授業、総合学習における土器づくり指導などを 学校等の要望に応じて行う。
教員研修	教育委員会や小学校・中学校社会科研究会と連携して、展示を活用した学習法や体験学習カリキュラムの研修、「昔の道具しらべ」や「吉田新田の開発」など特定テーマに関する研修を実施する。

(7) 地域や多様な組織との連携

項 目	内 容
都筑区との連携	・平成31年に刊行予定の「図説 都筑の歴史（仮題）」の編纂事業を財団の他施設と共に協力する。 ・都筑区・都筑図書館主催の「郷土講座」を共催する。
金沢区との連携	・金沢区と当財団が締結した「歴史文化の普及啓発に関する協定書」に基づき、文化事業などで連携を図る。
NPO 法人「都筑民家園」管理運営委員会との連携	・民家園・遺跡公園・博物館エントランスを会場に、グローバル化や国際化の要請に応え、「日本を知ろう」を意識した「都筑・遺跡公園・民家園アート月間」を開催する。10月頃実施予定。 ・遺跡公園を会場にした「遺跡オーガニック マルシェ」の開催など、多彩な事業を展開する。
タウンセンター活性化検討会での活動	・センター南・北の活性化について、当該地区の諸事業所ともにアイデアを出し合い、区民まつり、センター北まつりへの出店も含めて多様な企画や催しを実施する。
民間事業者との連携	・富士ゼロックス（株）と連携し、当館企画展や常設展示室にお

	いて最先端のディスプレイや新たなサービスの提供実験を実施する。
その他の地域連携	・その他、市内や都筑区内の学校・大学、町内会、地区センター、市民団体、民間事業者などと随時連携し、大小の事業を実施する。



お城 EXPO での出張展示



明治神宮前駅での企画展ポスター掲示

(8) 広報・広聴

項 目	内 容
広報	<ul style="list-style-type: none"> ・市営地下鉄駅構内の広報案内看板による広報。 ・市役所や図書館など公共施設、他の博物館や観光案内所等でのチラシ・パンフレット類の配布。 ・インターネットによる広報（ホームページ・SNS・メールマガジン発信） ・一般新聞・雑誌等への広告掲載。 ・テレビ・ラジオなどへの話題提供・出演。 ・「横浜市歴史博物館 News」や催し物案内、パンフレット等の広報印刷物を発行する。 ・市民や利用者ニーズの把握のために、アンケートやモニタリングを行い、顧客満足度と市民ニーズを把握し、評価・改善のためのデータを作成する。

(9) 出版

項 目	内 容
出版物発行	<ul style="list-style-type: none"> ・「横浜市歴史博物館資料目録」第27集 ・「紀要」第23号 ・「調査研究報告」第14号 ・企画展関連出版物（図録等）

(10) 実習生・研修生の受入

項 目	内 容
-----	-----

中学校	中学校のキャリア教育の一環として実施される職場体験について、希望する生徒を受け入れる。
高校生	高等学校でのキャリア教育の一環として実施されるインターンシップについて、希望する生徒を受け入れる。
大学・大学院	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館館務実習として学芸員資格取得を目指す実習生を受け入れる。 ・その他、インターンシップや社会教育研修などを希望する大学生・大学院生を受け入れる。

5 情報事業（定款第4条第1項第1号②）

（1）インターネットによる文化財と催事情報の発信

館蔵資料や市域指定文化財の情報を発信するほか、催事情報や図書閲覧室の蔵書検索などをウェブを通じて発信する。

（2）映像資料の公開

常設展示室映像コーナーで、横浜の歴史や文化財に関するビデオを公開する。

（3）文化財情報システムの保守管理

サーバーならびにグループウェアに関わる機器類の保守管理を行う。

（4）メールマガジンやSNSの活用

メールマガジンやSNSを利用し、博物館の存在をより身近に感じるような広報を行なう。

（5）インターネット催事申込システムと学校団体予約システムの運用

市民ニーズを踏まえてインターネットを利用した催事申込システムならびに、昨年度導入した学校団体予約システムを運用する。

6 施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

歴史博物館及び野外施設の施設維持を行う。

（1）歴史博物館及び野外の施設維持。

（2）研修室・講堂等の貸出及び稼働率の向上。

（3）広告料収入等の確保。

（4）帰宅困難者一時滞在施設としての対応。

7 収益事業（定款第4条第2項）

（1）ミュージアムショップの経営

歴史博物館のミュージアムショップにおいて、資料目録、研究紀要等の出版物、関連図書、企画展関連グッズ、所蔵品のレプリカ等の販売を行う。

（2）駐車場の運営

歴史博物館の来館者用駐車場を運営する。

（3）飲料自動販売機の設置

施設利用者の利便を図るため、歴史博物館に自動販売機を設置し、飲食物を販売する。

3 開港資料館事業

< 運営方針 >

平成 30 年度、開港資料館では 4 本の企画展を開催しますが、第 2 回の企画展では明治維新 150 周年を記念して歴史博物館と連携して戊辰戦争時の関内地域の状況を紹介します。この展示はこれまで財団諸施設に蓄積された研究成果を歴史博物館と連携して公開するものです。

また、一昨年度、開港資料館では市内有数の質と量を持つ都筑区の旧家中山家所蔵資料を借用し、現在、整理を進めていますが、30 年度も整理を継続し、31 年度には江戸時代から昭和初年の中山家の活動を紹介するミニ展示や講座を開催する予定です。また、中山家の資料を分析・研究するにあたっては、都発や歴博の職員とも連携し、外部の研究者とも共同研究ができる体制を作っていきます。

29 年度は「緑化フェア」に協賛し、環境創造局と連携し事業をおこないました。また、開港記念会館 100 周年事業を通じて地域の賑わい創出に積極的に関わりましたが、30 年度も横浜港振興協会や地域のマスコミなどと協働して関内地域の活性化事業に関与していきます。さらに、全国的な歴史研究学会である地方史研究協議会の第 69 回神奈川大会を同協議会と共催します。

1 資料収集保管事業（定款第 4 条第 1 項第 1 号①）

（1）資料の収集

項 目	目的・内容
資料の寄贈・寄託	地域の貴重な歴史資料の流出・滅失・破損を防ぐため、市民に理解と協力を求めながら、積極的に歴史資料の寄贈や寄託を受ける。特に、これまでやや収集が手薄であった大正期以降の民間が所蔵する資料の収集を都市発展記念館や市史資料室と連携しながら進める。
資料購入	近代横浜の歴史に関する国内や海外の資料、展示用資料、新聞・雑誌、文献等を広く目配りしながら購入する。
資料の撮影	原本で収集できない歴史資料を、マイクロフィルムやデジタル撮影により収集する。また、原本の保存や閲覧利用の必要上、原本資料を撮影して複製本を作成する。

（2）資料の整理・公開

収集した歴史資料を、それぞれ資料群に応じた合理的な分類方法によって整理し、目録作成のうえ閲覧利用に供する。

（3）資料の保管

資料は、常時、温度 20～22 度、湿度 50～55 %を保った収蔵庫で保管する。

収蔵資料のうち、劣化あるいは破損した資料は専門業者に委託して補修を行い、大型の器物等資料は、外部の資料倉庫を借り上げ保管する。また、通年、収蔵庫や展示室、閲覧室などにおける昆

虫やカビ、塵芥などの測定調査を行い、資料の保存環境の維持管理を図る。

(4) 資料等の貸出

収蔵資料の普及と有効利用を図るため、類似施設等での展示会へ資料を貸し出す。

2 調査研究事業（定款第4条第1項第1号①）

(1) 調査研究

歴史資料の収集・整理や歴史・資料の研究、また閲覧や企画展示等公開普及事業など、資料館業務を遂行する上で必要な調査研究を行う。

項 目	目的・内容	今年度の成果目標
開国・開港期の研究 (3/3年)	近代日本の主要産業だった貿易や近代化に向けての幕府や明治政府の政策についての研究	スイス人商人ブレンワルドの日記の翻刻、明治維新関係資料の調査・分析。
横浜近代社会政治史 (3/3年)	政治外交の舞台としての横浜と周辺町村の近代化についての調査・研究	市外の歴史資料保存活用機関所蔵の横浜関連資料の調査・分析、富国強兵政策と徴兵制度が地域社会に与えた影響を多角的に調査・分析
横浜近世・近代社会経済史 (3/3年)	横浜開港の前提となった17～19世紀における地域的な諸条件(政治・社会・経済等)の研究	横浜市域の北部を構成する旧武蔵国橘樹郡・都筑郡の地域構造に関する調査・分析
横浜近代文化史 (3/3年)	近代文明化の基礎となった幕末・明治の横浜の出版文化に関する研究および郷土史・学校史についての調査・研究	出版関係資料である小宮山博史氏所蔵資料の整理、郷土史家関係資料の整理、和装本の整理とHPでの公開
横浜近代欧米関係史 (3/3年)	幕末・明治維新时期を中心とする横浜の外国人社会の調査・研究—とくに幕府・明治政府と欧米列強間の外交と外国人社会への影響の調査・研究	収集済み海外関係資料の調査研究を実施し、展示や出版などの事業を通して普及を図る。また受け入れ済み海外関係資料の整理を継続し、一般閲覧公開を図る。
横浜近代アジア関係史 (3/3年)	19世紀中頃から20世紀中頃を中心に、横浜のアジア系外国人社会の調査・研究	中国語雑誌や図書などの整理、横浜華僑関係の資料調査と収集、オーラルヒストリー調査の実施。
歴史情報の集積と研究 (3/3年)	横浜の新聞・雑誌を中心とする刊行物と出版者等に関する研究、横浜に関する歴史情報の集積と公開	幕末から昭和戦前期に発行された歴史資料としての新聞・雑誌等に関わる調査・整理・研究を実施、合わせて最新の歴史情報を集積しレファレンスに活用する。
*歴史資料の保存に関する調査・研究は、資料の保存管理、修復事業の過程で実施する。		

(2) 連携研究事業

複数の時代・分野に関わるテーマについて、当財団が管理する諸施設との連携研究を実施する。

①戦中・戦後期の都市横浜に関する連携研究事業

戦争の時代から戦災復興を経て、高度経済成長へと至る昭和期横浜の歴史を多角的に明らかにする調査研究事業を、市史資料室・都市発展記念館と連携して進める。昨年度までの活動を継続し、「高度成長期の都市横浜」に関する資料収集・調査研究を進め、その成果を展示・講座講演会などで活用できるよう準備する。

②横浜を中心とする「地図データベース」活用に関する調査研究事業

都市発展記念館・市史資料室との連携事業（3／3年）。調査研究の成果にもとづきながら、「地図データベース」の各施設の企画展示などで活用をはかる。また、同データベースの拡充と更新の作業も進める。

③明治維新に関する共同研究

歴史博物館との連携により開催する明治維新 150 周年関連企画展に向けて、明治維新に関する共同研究を実施する。

（3）調査研究の委託

内部の専門職員だけでは実施出来ない調査研究を、外部の専門家団体と協働して行い、資料の収集・整理、普及などの業務に反映させる。今年度は昨年度に引き続き、下記の調査業務を実施し、昨年度、借用した都筑区川和町の旧家中山家の所蔵資料の整理と分析を外部の研究者と共同で行う予定である。

項 目	目的・内容	今年度の成果目標
横浜近現代史分野の調査研究	横浜近現代史の総合研究 (3／3年次)	①市内外旧家・機関所蔵資料の調査 ②横浜関連資料の調査研究 ③東京湾・横浜港・河川史に関する調査
横浜国際関係史分野の調査研究	横浜における華僑の教育史に関する調査研究 (3／3年次)	①オーラルヒストリー調査の実施 ②教育関係資料の調査・収集・研究

（4）研究紀要の発行

「横浜開港資料館紀要」第36号を発行する。（発行1，250部）

3 常設展事業（定款第4条第1項第1号②）

（1）常設展示室

常設展示室1「横浜開港への道」、及び常設展示室2「街は語る－開化ヨコハマ－」の2室の維持管理を行う。

（2）旧館の活用

旧館1階の記念室（旧英国総領事執務室）等を公開するとともに、旧館記念ホールなどにおけるミニ展示の実施等、さまざまな事業により、市民が旧館ホールや記念室を横浜の歴史と文化に触れる場所として活用する。また、旧館長室の公開にむけて、どのような活用ができるのかを検討する。

（3）屋外展示

中庭に設置している野外展示パネルは、子どもたちにも分かりやすくペリー来航から関東大震災にいたる横浜の歴史を学ぶことができる。維持管理とともに、広く広報することにより、集客に結びつけていく。また、横浜の歴史のシンボルである「たまくすの木」についても広報する。

(観覧者目標数 100,000人)

(4) 特別資料コーナー

常設展示室に特別資料コーナーを設けて、寄贈・寄託された資料やアップツーデートのテーマに関する資料などを随時、紹介する。

(5) 展示等事業の広報、情報発信

項 目	内 容
広報誌発行	館報「開港のひろば」第140～143号を発行する。 (発行部数：12,000～15,000部)
リーフレット類作成	開港資料館案内パンフレット・催し物案内を作成する。
広報	<ul style="list-style-type: none"> ・市営地下鉄駅構内の案内看板による広報（関内駅） ・みなとみらい線駅構内の案内看板による広報（日本大通り駅） ・新聞・雑誌等メディアへの記事掲載による広報 ・当館ホームページやメールニュース、展示情報掲載サイト等への情報掲載による広報 ・市内観光案内所、ホテル、横浜市PRボックス、大学等へのチラシ配布 ・学校ポストを利用した市内小中学校、高校への広報
夜間開館	館のイベントや近隣のイベントと合わせて、午後7時までの開館延長を行う。(年10日程度)

4 企画普及事業 (定款第4条第1項第1号②)

(1) 企画展の実施

企画展名称(仮称)／開催期間	目的・内容
「金属活字と明治の横浜 ～小宮山博史コレクションを中心に～」 平成30年4月27日(金) ～7月16日(月・祝日)	活版印刷で用いられる日本語の金属活字は、ヨーロッパで作られ、キリスト教のアジア伝道の中心であった中国を経て、長崎に伝えられました。活字と活版印刷術の導入は、日本の近代化に大きな役割を果たしましたが、本展示では、金属活字の誕生から日本への伝播、そして横浜における普及の歴史を、活字史研究家、小宮山博史氏のコレクションを中心にたどります。
「戊辰の横浜 開港都市の1868年」 平成30年7月21日(土) ～10月28日(日)	戊辰戦争が起きた1868年(明治元年)において、国際貿易都市・横浜が果たした役割を、当時の社会状況や対外関係を視野に入れながら紹介する。歴史博物館との連携展示。
「富国強兵—徴兵制度と横浜の人びと—」 平成30年11月3日(土) ～平成31年1月27日(日)	明治維新を達成した新政府は、アジアに進出してくる欧米列強と肩を並べるため、軍事力の強化に努めた。本展示では、富国強兵政策と徴兵制度が横浜の人びとに与えた影響を明らかにする。
「横浜浮世絵の世界」 平成31年2月2日(土)	1859年(安政6年)の開港により、新たな「名所」となった開港場横浜を描く「横浜浮世絵」の世界を、当館所蔵の浮世絵を中心に紹

～4月21日（日）	介する。
企画展関連事業	上記企画展の開催にあわせ、関連事業として講座・講演会・展示解説等を実施する。

（２）講座・講演会ほか

項 目	参加者目標数	目的・内容
市民団体との共催による講座等の実施	のべ100人	横浜郷土史団体連絡協議会等の市民団体と共催する講座等を実施する。
大学・研究機関等との連携事業	のべ20人	大学・研究機関等の見学・利用に対応するとともに、大学等のインターンシップの受け入れを行う。
「子どもアドベンチャー2017」への参加	10人	横浜市が取り組んでいる児童を対象とした夏休み企画への参加。 8月中旬
「開港記念日」市民優待デー ワークショップ	のべ100人	6月2日の開港記念日を中心として、子供を中心にしたワークショップを開催し市民の参加をはかるとともに、同時期に開催される都市発展記念館・ユーラシア文化館のワークショップと広報面も含め、協力・連携する。

（３）出版物の作成

資料収集や整理、調査研究、企画展など資料館事業の成果を広く市民に紹介するため、各種出版物を作成し頒布する。また、需要の多い在庫切れ出版物を増刷する。

<出版予定>

- ① 広報誌 横浜開港資料館報「開港のひろば」第140～143号
（発行部数：12,000～15,000部、各号の発行部数は入館者の目標数によって変更する。）
- ② 「横浜開港資料館紀要」第36号 （発行部数：1,250部）
- ③ 企画展関連の出版物・印刷物の発行

（４）市民協働・学校連携・博物館連携 他

（ア）横浜郷土史団体連絡協議会の活動を支援する。

郷土史に関心を持つ団体が情報交換し、広範な活動ができるように、当館が中心となり設立した横浜郷土史団体連絡協議会（現在、市内18区約51団体）とともに、協働事業（講座・研修会等）を展開していく。事務局は当館と歴史博物館の職員が担当する。

（イ）学校・研究団体、NPO法人、企業・商工団体、ガイド協会などと協働事業を行う。第1回企画展示では、5月下旬に開催される横浜セントラルタウンフェスティバル Y159 に都市発展記念館・ユーラシア文化館とともに参加し、山下公園通り会、元町SS会、横浜中華街発展会、馬車道通り会などの地元商業団体と連携し、資料館活動への理解促進と来館者増をはかる。

（ウ）各施設で様々な学年を受け入れられるような体制を構築する一環として、当館では「ペリー来航」と「横浜開港」を主要な題材として、市立小学校6年生の社会見学・展示見学の受け入れを検討する。

（エ）主要な高等学校との連携として、神奈川県内の公立高等学校の社会科関連のクラブによって構成される神奈川県高等学校文化連盟（神奈川県高文連）の社会科専門部会と提携するこ

とにより、展示見学の受け入れ、会合等における会場の提供、研究活動への助言等を進めていく。

(オ) 従来より行っている「中区歴史の散歩道」の執筆等、市役所や中区をはじめとする各区、横浜港振興協会などとの連携・協力を進めていく。

(カ) 首都圏形成史研究会などの学術団体と連携するとともに、本財団の共催事業である地方史研究協議会の第 69 回大会（仮称・神奈川大会／平成 30 年 10 月予定）を開催する。

(5) 外部組織への資料提供および助言・監修

(ア) マスコミ等への企画協力・情報提供

新聞社・テレビ局等が企画する記事・番組への監修協力や情報提供を行う。

(イ) 助言・監修

公共施設や企業へ資料を提供するとともに、その作成物について助言・監修を行う。

(6) 資料館館務実習

学芸員資格取得を目指す実習生を受け入れる。受入数：10 人程度

(7) 各種情報のホームページなどによる発信等

(ア) 画像資料等のデジタル化等

古写真・絵葉書を中心にした画像資料のデジタル化や、収蔵資料のデータベース作成を進める。

(イ) ホームページによる情報提供

ホームページの内容・体裁の改善を進め、新規閲覧公開資料や開館時間、アクセス、企画展示や講座、出版など最新の資料館情報を提供する。

(ウ) ホームページによる市民ニーズの把握

ホームページのアクセス形態や内容などを分析して市民の関心やニーズを把握し、事業や企画の改善に反映させる。

アクセス目標件数 120,000 件

(エ) 電子メールによる情報発信

企画展示、講座などの催し物情報を希望者に電子メールで発信する。 発信先約 1,100 件

(オ) O P A C による蔵書検索機能の充実

(カ) 地図の共同データベース化

都市発展記念館・市史資料室と共同で各施設が所蔵する地図のデータベース化を進め、3 施設が合同で地図を事業に活用できる体制の構築を目指す。すでに昨年度までに、約 14,800 点の地図のデータを入力し、また検索用簡易デジタル画像の撮影を開始した。

(8) 複製資料の提供

市民や地方自治体、学校、企業（出版社、新聞社、テレビ局など）の求めに応じ所蔵資料の複製を提供する。提供の方法は、複製フィルムをデジタル化し C D - R O M で提供する。これにより資料情報の発信を促進する。

利用目標件数 500 件 / 利用目標資料点数 1,500 点

(9) 資料閲覧室の運営

閲覧室において、収蔵資料を一般閲覧に供し、専門職員によるレファレンスを充実させるとともに、資料のコピーサービスを行う。閲覧室の活用について小・中・高校の社会科研究会などに情

報提供を行う。

閲覧室利用者目標数 2, 500人

5 情報事業（定款第4条第1項第1号②）

インターネット等を利用して、文化財・歴史資料及び展示等に関する情報を提供するための情報システム機器類の運用・保守を行う。

6 施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

開港資料館の施設維持を行う。

7 収益事業（定款第4条第2項）

（1）ミュージアムショップの経営

開港資料館のミュージアムショップにおいて、資料目録、研究紀要、関連図書、グッズ等の販売と各企画展示にあわせた商品展開、売り場作りを行う。また、企画展示関連の出版物等の作成を行う。商品は通信販売でも取扱い、積極的に販路を拡大する。

（2）飲料自動販売機の設置

施設利用者の利便を図るため、開港資料館に飲料自動販売機を設置し、飲み物を販売する。

（3）喫茶室の運営

来館者の利便を図るため、付属棟に喫茶室を設け、その運営を専門業者に委託する。

4 都市発展記念館事業

< 運営方針 >

都市発展記念館では、これまで昭和期の横浜の歴史を明らかにするために市史資料室や開港資料館と連携して調査・研究をおこなってきました。今年度もこうした活動を継続しておこないます。特に、31年度以降に企画展を開催することになっている飛鳥田市長によって進められた六大事業や30年度に企画展を開催する奥村泰宏・常盤とよ子夫妻が撮影した占領期の横浜についての研究を深化させます。また、これらの展示には市史資料室が所蔵する資料を活用していきます。

一方、資料整理では都筑区の旧家中山家の資料を開港資料館と共同で整理するとともに、外部の研究者を含む同家資料を分析するための研究会を開港資料館とともに立ち上げます。また、横浜市役所の依頼によって新市庁舎の屋外に展示される市庁舎の敷地から発掘された遺構の解説についても埋蔵文化財センターと共同で市役所に協力する予定です。

そのほか、学校連携事業や市民協働事業、ホテルニューグランド所蔵資料の収集・整理についても従来通り積極的に取り組んでいきます。

1 資料収集保管事業（定款第4条第1項第1号①）

昭和期を中心に、都市横浜のあゆみに関する資料を収集するとともに、ホームページを利用した画像資料の公開を進める。

（1）資料の収集と保管

項 目	目的・内容
資料の寄贈・寄託	昭和期を中心に「都市形成」、「市民の暮らし」、「横浜の文化」に関する資料が散逸しないように、開港資料館・市史資料室と連携して地域に残る資料を発掘し、積極的に寄贈・寄託を受け入れる。
資料購入	昭和期を中心に「都市形成」、「市民の暮らし」、「横浜の文化」に関する資料を収集する。
複製による資料収集	原資料で収集できないものをフィルム撮影等により収集する。
資料修繕	傷みの激しい資料は専門業者に委託して修復を行う。
資料の保管	資料は温湿度を一定に保った収蔵庫で保管する。収蔵庫に収まらない器物等の大型資料は、外部倉庫を賃借して保管する。所蔵資料の情報はデータベースに入力し管理する。
環境調査	保存環境を良好な状態に保つため、展示室・収蔵庫の環境調査をユーラシア文化館と共同して定期的に行う。また資料保存に関する最新の知見を入手することに努める。

（2）資料の整理・公開

収集した資料をそれぞれ資料群に応じた分類方法によって整理し、目録を作成する。今年度は昨年度に引き続き、都筑区川和町の旧家・中山家の資料整理を開港資料館と共同で進めるとともに、鶴見区の池田家旧蔵資料について寄贈手続きに向けた整理を進める。また企画展での公開に向けて、占領期の横浜を撮影した写真家奥村泰宏、常盤とよ子夫妻の関係資料の整理を進める。

館蔵資料から絵葉書・古写真・ちらしなど画像資料のデジタル化を進め、ホームページ上の「絵葉書データベース」や「横浜歴史情報マップ」などで積極的に公開する。

（3）複製資料の提供

複製資料（所蔵資料の画像データ）を提供し、出版・放送・展示や市民の学習など、各種用途での利用に応じる。

2 調査研究事業（定款第4条第1項第1号①）

昭和期の横浜の歴史を中心に調査研究をおこない、その成果を事業に活用する。（1）は各テーマにもとづく基礎資料の調査・収集や市内の遺跡・遺構の基礎データの蓄積を目的とし、（2）は市史資料室・開港資料館との施設間連携により調査研究を深めることを目的とし、その成果は展示や出版事業で活用する。

(1) 調査研究

項 目	目的・内容	今年度の成果目標
横浜都市形成史 (3/3年次)	関東大震災後から高度経済成長期までの昭和期を中心に、現代都市横浜が形成される過程を、都市政策・都市計画（港湾計画）・都市交通などの観点から明らかにする。	都市交通資料について、(1)軌道交通＝市電関係等所蔵資料の整理と分析、(2)道路交通＝郊外幹線道路関係等資料の所在調査と収集・分析を継続する。成果は今年度企画展にて公開する。
		飛鳥田市政期に進められた六大事業を中心とする市の都市計画関係資料について収集・分析をおこなう。成果は次年度以降の企画展で公開する。
	市域での近代建築および出土遺物の調査を通じて、近代遺跡の観点から都市横浜の特性を明らかにする。	市域で採集された近代考古資料について、採集地点ごとに拓本・実測作業を進めてデータベースを拡充する。
横浜都市経済・産業史 (3/3年次)	昭和期を中心に下記の3つの視点から現代都市横浜の経済（産業）構造を明らかにする。 (1)商業地区（商店街）の形成と変容について (2)観光および都市イメージの形成と変容について (3)工業地帯の形成と変容について	繁華街（中心商店街）〔伊勢佐木町、横浜駅西口、馬車道等〕を対象に連携研究会等にて資料調査を行い、今年度も引き続き統計データの収集と分析をおこなう。
		旅行・観光関係資料（個人コレクション、ホテルニューグランド所蔵資料など）の収集・整理および映像資料の所在調査をおこなう。（継続）
横浜市政史／都市生活・文化史 (3/3年次)	・昭和期の横浜市政に関する資料の調査・研究を行い、政治史的観点から市政史の掘り下げを行う。 ・昭和期における横浜の都市生活の様相を把握するために資料の収集・調査を行い、市民生活の実態を明らかにする。	前年度に寄贈の申請があった、占領期の横浜を撮影した奥村泰宏、常盤とよ子夫妻の資料を整理した上で関連資料の調査をおこない、その成果を今年度の企画展示で公開する。

(2) 連携研究事業

複数の時代・分野に関わるテーマについて、当財団が管理する諸施設との連携研究を実施する。

①横浜を中心とする「地図データベース」活用に関する調査研究事業

開港資料館・市史資料室との連携事業（3カ年）。調査研究の成果にもとづきながら、「地図データベース」の活用をはかる。また、同データベースの拡充と更新の作業も進める。

②戦中・戦後期の都市横浜に関する連携研究事業

戦争の時代から戦災復興を経て、高度経済成長へと至る昭和期横浜の歴史を多角的に明らかにする調査研究事業を、市史資料室・開港資料館と連携して進める。昨年度までの活動を継続し、資

料収集・調査研究の成果を展示・講座講演会などで活用できるよう準備する。

(3) 研究紀要の発行

調査研究成果をまとめて『横浜都市発展記念館紀要』第15号を発行する。

(発行予定700部)

3 常設展事業 (定款第4条第1項第1号②)

(1) 常設展示の運営と展示設備の維持管理をおこなう。

(2) 「旧横浜市外電話局」の積極的な公開・活用をおこなう。

ユーラシア文化館と連携して、歴史的建造物としての魅力を残す旧第一玄関を活かした展示・集客事業を展開する。また開館祭などの無料開館日に、普段は入れない箇所の見学を含めた館内ツアーを実施する。

(3) 常設展示室の一面を使って、新収蔵資料を中心としたテーマ展示を開催する。

4 企画普及事業 (定款第4条第1項第1号②)

横浜の都市形成の歴史をより深く理解するための企画展示や講座を実施します。また、市内小学校団体の誘致や中学校の職場体験の受け入れなど、学校連携事業にも取り組みます。

(1) 企画展

展示名称(仮称)／開催期間	目的・内容
「伸びる鉄道、広がる道路～横浜をめぐる交通網」 平成30年4月14日(土)～ 7月1日(日)	横浜の都市形成についての理解を深めるため、鉄道と道路の両方を取り上げ、横浜の交通インフラとそのネットワークのあゆみを紹介する。
「奥村泰宏、常盤とよ子写真展」(仮題) 平成30年10月6日(土)～ 平成30年12月24日(月・祝)	戦後占領期の横浜の市民生活と占領軍との交流を撮影した奥村泰宏、常盤とよ子夫妻の写真資料と、関連する当時の歴史資料を展示し、占領期の横浜の様々なテーマについて紹介する。

(2) 普及啓発

項目	参加者目標数	目的・内容
月イチ講座	各回30人	企画展未開催期間を利用して、新収資料や最新の調査成果などを紹介する講座を1階ギャラリーで開催する。
1階ギャラリーの活用	各回ごと設定	1階ギャラリーを利用して、写真パネル展などの集客事業を開催し、新規来館者層の獲得につなげる。
ワークショップの開催	各回30人	1階フリースペースを活用し、市民ボランティアと協働しながら、企画展や昭和の時代に関連したワークショップを実施する。
「子どもアドベンチャー2018」への参加	10人	横浜市の取り組んでいる児童を対象とした夏休み企画に参加する。

(3) 集客イベント

項 目	内 容
「開港記念日」市民優待デー	6月2日の開港記念日を無料開館日とし、学校が休みとなる小学生向けのワークショップなどを実施する。
夏休みイベント	ユーラシア文化館との共催で、夏休み期間に無料開館日を設けて、子ども向けワークショップを中心としたイベントを実施する。
開館祭	ユーラシア文化館との共催で、3月15日の開館記念日前後に無料開館日を設けて、市民感謝イベントを実施する。



「開港記念日」ワークショップ



夏休みイベント

(4) 市民協働

項 目	内 容
ボランティアとの協働	企画展開催中の週末および夏休みイベントや開館祭の機会に、市民ボランティアと協働しながら、ワークショップを実施する。

(5) 地域・行政との連携

項 目	目的・内容
地域事業者との連携	日本大通り界隈の事業者が加盟する日本大通り活性化委員会に参加し、日本大通り周辺の賑わい創出および都市発展記念館・ユーラシア文化館への観光客の誘致を図る。また、5月下旬に開催される横浜セントラルタウン・フェスティバル Y159 に開港資料館とともに参加し、山下公園通り会、元町 SS 会、横浜中華街発展会、馬車道通り会などの地元商業団体と連携して、地域の賑わいの創出と来館者増を図る。
区役所・市役所が実施する事業への協力	<ul style="list-style-type: none"> ・中区に関する歴史資料を紹介する記事を「広報よこはま なか区版」に開港資料館と共同で連載する。(昨年度より継続) ・横浜市の依頼により、新市庁舎の建設にあたって屋外展示される遺構の解説版の製作に、埋蔵文化財センターと共同で協力する。

(6) 学校連携

項 目	目的・内容
市内学校団体見学の受け入れ	小学校4年生を対象に、「吉田新田とその後」をテーマにした解説つき展示案内を実施し、市内学校団体を誘致する。
教員向け研修の企画	小学校の授業内容に即した教員対象の研修を企画、実施する。
学校連携事業	財団エデュケーター、教育委員会指導主事を通じて教育現場のニーズを把握し、教員、生徒に向けた情報発信を行う。

(7) 広報活動

項 目	内 容
広報誌発行	『ハマ発Newsletter』の編集・発行 (第31～32号、各10,000部)
印刷物作成	企画展示案内(ポスター・チラシ)、「催し物案内」(リーフレット)の作成
ホームページの運営	インターネットによる最新情報の案内、展示内容の紹介、所蔵資料の画像データの公開など
メールニュースの配信	希望者に最新情報の案内を電子メールで配信する。単なる情報の羅列にとどめずに、事業担当者がわかりやすく事業について解説・案内する。
「ハマ発ブログ」の運営	当館職員の日常的な活動(展示準備や調査研究の余話など)を、ブログ形式で発信し、館に親しみを持ってもらう。
マスコミ対応	<ul style="list-style-type: none"> ・放送(テレビ、ラジオ等)、新聞・雑誌(タウン誌などを含む)の取材対応と情報の提供 ・フィルムコミッションへの協力 ・広告の掲出(新聞・雑誌、地下鉄車内など)
外部機関との提携	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道駅構内へのポスター掲出、チラシ等配置 ・観光案内所、ホテル、旅行代理店などへの印刷物配布 ・観光・地域振興等関連団体への参加 <p>日本大通り活性化委員会での活動、Open! Yokohama、横浜セントラルタウン・フェスティバルY159などへの参加</p>
市民ニーズの把握	実施事業ごとにアンケート調査を行い、利用者の満足度と市民ニーズの把握を行う。
夜間開館	無料開館日や近隣のイベント開催日に合わせて、午後7時までの開館時間延長を行う。

(8) 実習生・研修生の受け入れ

項 目	内 容
博物館館務実習	学芸員資格取得を目指す実習生を受け入れる。4名。

5 情報事業（定款第4条第1項第1号②）

（1）収蔵資料等データ入力

収蔵品、寄贈・寄託資料のデータベース化を図る。

（2）ホームページを利用した資料公開

ホームページ上で、写真・絵葉書などの画像資料を公開する。

ホームページアクセス目標件数 30,000件

6 施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

横浜都市発展記念館の施設維持を行います。

7 収益事業（定款第4条第2項）

（1）ミュージアムショップの経営

都市発展記念館・ユーラシア文化館のミュージアムショップにおいて、資料目録、研究紀要等の出版物、関連図書、企画展関連グッズ、所蔵資料の複製等の販売を行う。

（2）飲料自動販売機の設置

施設利用者の利便を図るため、都市発展記念館・ユーラシア文化館に飲料自動販売機を設置し、飲み物を販売する。

5 ユーラシア文化館事業

< 運営方針 >

ユーラシア文化館は、市民の方にユーラシア文化への理解を促進し、国際文化都市横浜の発展に寄与するために、調査研究、展示、出版、講演会、イベントなどを実施しています。

今年度、常設展示室では、企画展などと連動させてスポット展示を実施していきます。企画展は、他の博物館や大学と連携・協力して、バリの伝統民族衣装、中国の陶磁器や明器に関わる展示を開催します。調査研究では、館の基幹となる資料の調査・研究をはじめ、引き続き歴史博物館の協力を得て、外部の研究者も交えて、ユーラシア概念を深めていく研究を進めていきます。

学校との連携では、定着した4年生の学校団体見学に加え、引き続き、ゲルやモンゴルの部屋コーナーを有効に活用し、モンゴル童話を教材にしている低学年の見学や教師向けの講座を推進していきます。また常設展示を活用し、美術・歴史関係で小・中学校との連携を進めます。

普及啓発事業では、ユーラシア文化に関わる市民向けの講演会を開催すると共に、1階のフリースペースや中庭や旧第一玄関などを活用し、講座やミニ展示、ワークショップ

プ、写真展など各種のイベントを開催し、市民の方が親しみながらユーラシア文化の理解を深める場としていきます。これらの事業展開にはボランティアと協働して当館のミュージアムシーンを創出します。

1 資料収集保管事業（定款第4条第1項第1号①）

（1）資料収集・保存

項 目	目的・内容
資料の寄贈・寄託	市民に理解と協力を求め、資料を流出・滅失・破損から守る。
資料購入	展示で活用しうる資料や、調査研究に資する資料を収集する。
資料の保管	資料は温湿度を一定に保った収蔵庫で保管する。所蔵資料の情報はデータベースに入力し管理する。
資料修繕	文献・資料の修復を行う。
環境調査	保存環境を良好な状態に保つため、展示室・収蔵庫の環境調査を都市発展記念館と共同して定期的に行う。また資料保存に関する最新の知見を入手することに努める。

（2）資料の整理

資料の公開に向け資料群に応じた適切な分類方法を検討、整理し、館蔵資料データベースを拡充する。

（3）文献資料の整理

考古・美術資料と並ぶ所蔵資料の柱である文献資料の公開に向け、整理・分類を継続する。整理が終わったものから順次公開していく。

項 目	目的・内容
バジル・グレイ旧蔵書・洋図書・洋雑誌・和図書	蔵書の分類を継続する。
和雑誌・中国語図書	中国語図書の書誌データも入力し、データベースを構築する。インターネットでの蔵書検索（OPAC公開）を拡充する。

2 調査研究事業（定款第4条第1項第1号①）

（1）調査研究

項 目	目的・内容	今年度の成果目標
収蔵資料と関連資料の研究 (3／5年)	江上コレクションの考古・美術・民族資料及び文献資料の調査を行う。	①館蔵イスラーム・ガラスや陶器などイスラーム時代の資料に関連した資料調査を行う。 ②メソポタミアの円筒印章に関して資料整理を行う。 ②関連する参考文献を収集する。

横浜市内にあるユーラシア関連資料の調査・研究 (3/5年)	横浜市民が保管するユーラシア関連資料について調査し、データを蓄積・公開する。	①これまでに市民から寄贈を受けたユーラシア関連画像データをデジタルアーカイブズで公開する。 ②市民から寄贈を受けた中国古鏡関連資料に基づいて構築・公開した銘文データベースを拡充する。
遊牧世界の物質文化の研究 (3/5年)	国内にある遊牧民の資料(考古資料・民族資料)について調査し、日本にはない遊牧文化について情報を発信し、市民の異文化理解に資する。	①外部研究会に参加し研究を深める。 ②研究成果を月イチ講座等で発信する。 ③イベントに遊牧文化紹介を組み込み、子どもたちの異文化理解を促進する。
ユーラシア概念をめぐる研究(3/5年)	「ユーラシア」の概念や、ユーラシア諸地域の文化交流について研究会を開催し、その理解を深める。 歴史博物館との連携事業	①両館学芸員に加え、外部の研究者も招聘し、3回程度の研究会を開く。 ②研究会の成果を紀要等に公開する。
お茶の展開ルートに関する研究(3/3)	当館所蔵お茶関連資料に関連し、チベット・モンゴルにおけるお茶のあり方、それが伝わったルート、国内所蔵の関連資料について調査する。	①当館所蔵お茶関連資料を整理・記録する。 ②チベットおよびモンゴルのお茶に関する先行研究を調査する。 ③関連資料所蔵機関を調査する。
平成31年度以降開催予定の企画展調査	平成31年度以降の企画展開催のために資料調査などを行う。	

(2) 資料の整理

資料の公開に向け資料群に応じた適切な分類方法を検討し、整理を行う。

3 常設展事業 (定款第4条第1項第1号②)

- (1) 横浜ユーラシア文化館の常設展示室の維持管理を行う。
- (2) ニュース性、企画展示とのつながり、関連機関との連携、市の施策を考慮に入れた展示替えを行う。
- (3) 学芸員による解説(和英)を行う。実施は予約制とし、市民・利用者の希望に沿った解説内容となるよう努める。
- (4) 展示室内・ライブラリーでの「利用者・学芸員双方向コミュニケーション」の充実を図る。
- (5) クイズラリーやスケッチなど常設展示室でのミニイベントを企画する。
- (6) 常設展示室を活用した美術・美術史関係で小・中学校との連携を試行的に行っていく。また、グローバル人材育成として、教育委員会の進める高校生のグローバル人材育成プログラムに協力していく。
- (7) 月イチ講座に関連した資料の展観、研究成果としての収蔵資料の特別公開、市民寄贈資料のお披

露目展示、大学教育と連携した資料展示など、常設展示室を利用したスポット展示を行う。

- (8) 都市発展記念館と連携して、歴史的建造物としての魅力を残す旧第一玄関、新たに整備した中庭などを活かした企画を実施し、常設展示室の集客につなげる。

4 企画普及事業 (定款第4条第1項第1号②)

(1) 企画展

企画展名称(仮称)／開催期間	目的・内容
企画展「知られざるバリの伝統衣装」(仮) 平成30年7月14日(土) ～9月24日(月・祝)63日間	日本・インドネシア友好60周年に合わせ、武居郁子コレクションの民族衣装を核にバリの伝統文化を紹介する。特に衣装と伝統儀式の関連性に着目して、舞踏や音楽とは異なり、あまり知られていないバリ島の伝統衣装・文化を展覧していく。
企画展「中国の陶磁器と文物」 平成31年1月19日(土) ～3月31日(日)62日間	早稲田大学會津八一記念博物館と連携し、會津八一収集、富岡重憲収集の中国陶磁器と中国の明器(死者と共に墓や付属施設に入れた器物の模型や土偶類)に江上波夫コレクションの中国陶磁器などを交えて展覧する。 ※早稲田大学會津八一記念博物館と連携・協力。
企画展関連ギャラリートーク	企画展に対する興味と理解を深めることを目的として、展示解説を行う。各回15人無料

(2) 講座・講演会

項 目	内 容
企画展に関連した講座・講演会	企画展「バリの伝統衣装」、「中国の陶磁器と文物」に関連した講座、講演会を計画する。
ユーラシア文化関連講演会	市民を対象に、ユーラシア文化に関係するテーマに関して、外部講師(外国人講師もふくめ)を招いて講演会を開催する。
月イチ講座	市民が参加しやすいミニ講座で研究成果を定期的に紹介する。都市発展記念館との共同事業。



企画展 ギャラリートーク



特別講演会

(3) 普及啓発

項 目	参加者目標数	目的・内容
ゲルに集まれ	2回実施、各回 500人	モンゴルの伝統的な移動住居である「ゲル」を利用し、住居の組立・解体、民族衣装の試着、馬頭琴の演奏会などを通し、モンゴル民話を学ぶ小学2年生をはじめ、多くの市民に異文化を体感し、理解を深めてもらう。
ワークショップの開催	各回30人	1階フリースペースを活用し、企画展や館蔵品に関連したものの作りワークショップを実施。参加者には市民ボランティアが対応する。
写真展・写真パネル展の開催	企画展来館者数	旧第一玄関などを会場に、企画展等に関連した写真展などを開催し、ユーラシアへの興味・関心を定着させる。
横浜市職員向けの研修	各回30人	市職員を対象に、館の事業・活動に対する理解を深め、今後の業務に活用できるよう、研修会を実施（関係局との連携）。
常設展関連ギャラリートーク	各回20人	常設展に対する興味と理解を深めることを目的として、展示室内で作品解説を行う。予約日に実施。無料
近隣企業との連携		横浜中華街の店舗とのタイアップ企画で、館の活動内容とのコラボなどを実施。
「子どもアドベンチャー2018」への参加	10人	横浜市が取り組んでいる児童を対象とした夏休み企画への参加（ワークショップ） 8月中旬

(4) 集客イベント事業

項 目	内 容
ミニコンサート・大道芸	ユーラシア諸地域の文化に親しめるような民族音楽のミニコンサートや大道芸を開催。企画展開催時または各種イベントの一環として実施する。
「開港記念日」市民優待デー	6月2日の開港記念日に無料開館し、学校が休みとなる小学生向けのワークショップなどを実施する。
夏のイベント	都市発展記念館と連携して、夏休みに子ども向けのワークショップを主としたイベントを開催する。
開館祭	都市発展記念館との連携事業として、3月15日の開館日前後に全館無料の感謝イベントを実施し、市民サービスを供する。
国際フェスタなど近隣イベントへの参加	秋に開催される国際フェスタなどに参加すると同時に、中庭にゲルを建てて、集客に努める。

(5) 市民協働

項 目	内 容
ボランティアとの協働	従来のワークショップ・各種イベント等に加え、市民ボランティアが幅広く館活動に協働で参加できるように検討・試行を行う。



馬頭琴演奏会



ワークショップ

(6) 近隣施設との連携

項 目	目的・内容
新聞博物館・放送ライブラリーとの連携	隣接する横浜情報文化センター内の新聞博物館・放送ライブラリーと、広報やイベントなどの事業連携をおこない、来館者の相乗効果を図る。
日本大通り活性化委員会への参加	日本大通り界隈の事業者が加盟する日本大通り活性化委員会の事業に参加し、日本大通り周辺の賑わい創出および都市発展記念館・ユーラシア文化館への観光客の誘致を図る。

(7) 学校連携・大学連携

項 目	内 容
博物館利用の促進	小学校団体の見学利用を推進する。モンゴル童話（2年生国語科単元）の時代的・社会的な背景や吉田新田とその後の発展（4年生社会科単元）を素材とする学校との連携。 歴史関係で小・中学校との連携も行っていく。
教員向け研修の企画	小学校の授業内容に則した教員対象の研修を企画、実施する。
大学教育連携展示	大学所属の研究者と協働し、講義などに合わせた形で小規模な展示を実施する。

(8) 広報出版・情報発信

項 目	内 容
出版物発行	・ 研究紀要7号の発行（500部） ・ 館報「News from EurAsia 横浜ユーラシア文化館ニュース」第29、30号を発行する。（各10,000部）
リーフレット類作成・配布	横浜ユーラシア文化館案内パンフレットを配布し、催し物案内を作成・配布する。
ホームページの運営	ホームページでの最新情報、展示内容、資料解説、イベント等の案内、および、資料データベースの拡充、OPAC検索、全国漢籍データベースへ

	のリンク。英語版ホームページの立ち上げ。
メールニュース配信	最新情報を確実に提供するため、登録された希望者にメールニュースを配信する。
その他の広報	<ul style="list-style-type: none"> ・日本大通り駅改札外掲示板へのポスター掲出 ・市営地下鉄関内駅改札外掲示板へのポスター掲出 ・インターネットでの施設案内 ・テレビ、ラジオ等放送媒体による施設案内 ・フィルムコミッションへ積極的に協力し、当館を撮影場所として P R ・タウン情報誌、旅行情報誌への施設案内掲載 ・市内観光案内所、観光施設へのチラシ訪問配布 ・スタンプラリー等による集客
市民ニーズの把握	実施事業でアンケートを行い、満足度調査と協働に対する市民ニーズの把握を行う。
夜間開館	館のイベントや近隣のイベントに合わせて、午後 7 時までの開館延長を行う。(年 10 日程度)
学校連携事業	財団エドゥケーター、教育委員会指導主事を通じて教育現場のニーズを把握し、教員、生徒に向けた情報発信を行う。

(9) 実習生・研修生の受け入れ

項 目	内 容
博物館館務実習	学芸員資格取得を目指す実習生を受け入れる。約 13 名。
社会研修	大学のインターンシップなどの受入。
職場体験	市内中学生の職場体験の受入。
大学学外研修	東洋史専攻の学生などを対象に、大学のカリキュラムに則した形の学外実習や研修を積極的に受け入れていく。

5 情報事業 (定款第 4 条第 1 項第 1 号②)

(1) 収蔵資料等データ入力

各施設の収蔵品、寄贈・寄託資料及び市域指定文化財のデータベース化を図る。

(2) ホームページを利用した市民ニーズの把握

ホームページ上で、施設に対する市民のニーズを把握する。

ホームページアクセス目標件数 80,000 件

6 施設維持事業 (定款第 4 条第 1 項第 1 号③)

ユーラシア文化館の施設維持を行う。

7 収益事業（定款第4条第2項）

（1）ミュージアムショップの経営

都市発展記念館・ユーラシア文化館のミュージアムショップにおいて、資料目録、研究紀要等の出版物、関連図書、企画展関連グッズ、所蔵品のレプリカ等の販売を行う。

（2）飲料自動販売機の設置

施設利用者の利便を図るため、都市発展記念館・ユーラシア文化館に飲料自動販売機を設置し、飲み物を販売する。

6 三殿台考古館事業

< 運営方針 >

国指定史跡として保存されている三殿台遺跡は、学術的価値が高いだけでなく、市民参加の発掘調査の先駆けとして全国的に知られている。当館は、縄文時代から続く歴史の証人である遺構と出土品等を、適切に保存・管理して未来へ継承するための拠点となっている。

当館では市民や来訪者にその意義を伝え理解を深めるために、案内解説や体験学習などの活動を展開している。今年度も収蔵された出土品の再整理や遺跡のガイドのために市民ボランティアを養成するなど、地域や市民との協働で事業に取り組んでいく。

また、老朽化した旧事務棟を閉鎖し、事務機能を展示室に、体験教室機能を屋外パーゴラに移して1年半余りになったが、展示室のすぐ脇に事務室があり職員がいるために来館者とのコミュニケーションの機会がさらに増えた。そして屋外での体験教室は、様々な課題はあるものの風除けや照明等いろいろな工夫をする中で利用者の増加が見られる。新年度もサービス向上に向け、さらに様々な工夫をしていきたい。

1 資料収集保管・調査研究事業（定款第4条第1項第1号①）

（1）保管資料再整備事業

（ア）出土品保管再整備事業

調査後収蔵されたままになっている出土品についての整理作業、現在展示中の遺物の補修・着彩、新たな復元等を継続して行い、資料の保全と活用を図る。三殿台遺跡と周辺部遺跡関係資料の保管スペースを確保し、保管状況を改善する。

（イ）記録資料のデジタル化事業

記録資料の保存と活用を図るため、写真や測量図面のデジタルデータ化を実施する。整理後、災害に備える意味も含めてデジタルデータを横浜市歴史博物館と埋蔵文化財センターに分散保管する。本年度も劣化が著しい写真資料を優先し、埋蔵文化財センターと連携して記録資料のデジタル化を継続する。

（2）調査研究事業

（ア）三殿台遺跡出土品の資料化

三殿台遺跡出土資料のうち、弥生時代中期後葉の遺物と遺構について、再整理報告を行う。
 (イ) 三殿台考古館収蔵資料の活用

館収蔵資料を展示等で公開・活用するほか、貸出し等も行う。

(ウ) 原始技術の復元的研究

原始時代の諸技術を実験考古学的な視点・方法によって復元する。その結果を体験教室に生かすなど、多方面の活用を図る。

2 常設展事業 (定款第4条第1項第1号②)

(1) 常設展事業

常設展示室の維持管理を適切に行い、展示内容の充実を図るため定期的な展示品の入れ替えを行うとともに来館者にわかりやすい展示解説を実施する。また、展示室の約半分に事務機能を移転させたことによる来館者との接触機会の増加を活かし、多くの来館者とコミュニケーションを図り質問などに積極的に答えていく。

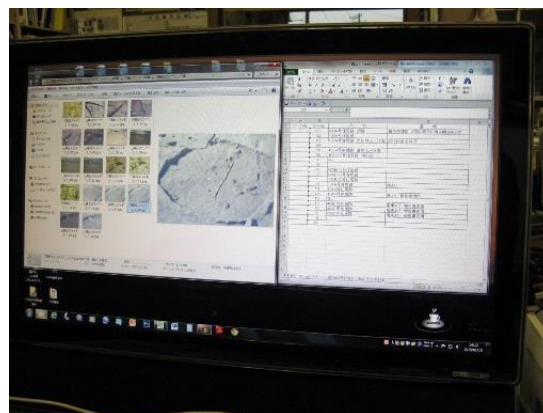
29年度は休館日を毎週月曜日としたことにより休館日が月1日であった前年度より来館者総数は若干減少したが、1日の平均来館数は増加している。今年度はこれまでより広報活動を充実させるとともに学校教育活動との連携をさらに推進して来館者の増加を図る。

(2) 露出展示遺構保全事業

保護棟内に露出展示されている竪穴住居跡の適切な保全を図るため、定期的なメンテナンスを実施する。



露出展示遺構保全作業の様子



カラスライド索引作成作業の様子

3 企画普及事業 (定款第4条第1項第1号②)

(1) 企画普及事業

項 目	目的・内容
「いそっぴゴールデンウィーク2018スタンプラリー」への参加	・磯子区の市民利用施設が連携して行うゴールデンウィーク企画事業へ参加する
「子どもアドベンチャー	・横浜市教育委員会が取り組んでいる児童を対象とした夏休み企画

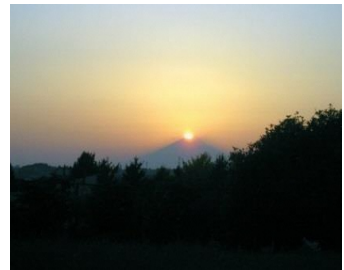
2018」への参加	事業へ参加する
三殿台遺跡整理ボランティア	<ul style="list-style-type: none"> ・埋蔵文化財に関心ある市民にボランティアとして整理作業に参加してもらい、接合・復元、修復作業を市民協働で実施する ・埋蔵文化財修復方法を体得してもらうとともに、市民の生涯学習意欲に対応する ・年2回ボランティア研修を埋蔵文化財センター等と連携して行う ・体験学習の補助を行う
三殿台遺跡ガイドボランティア	<ul style="list-style-type: none"> ・埋蔵文化財に関心ある市民にボランティアとしてガイドに参加してもらい、来館者への三殿台遺跡の解説を行う ・年2回ボランティア研修を埋蔵文化財センター等と連携して行い、生涯学習支援を行う ・体験学習の補助を行う
学校見学の受け入れ	小・中・高・大学による学校見学を随時受け入れる
職業体験の受け入れ	職業体験は随時3人程度まで受け入れる
クラブ活動・総合的な学習の時間等への支援	クラブ活動・総合的な学習の時間・サマースクール等の支援を行う
ホームページの運営	月1回程度ホームページを更新し、体験学習の情報等を広報する
ダイヤモンド富士観察	ダイヤモンド富士が見学できる期間の開館時間を延長する
その他広報	(ア) 体験学習の案内チラシを作成し、周辺小・中学校や市民利用施設に配布する (イ) 「PLANETかながわ」等のインターネットを利用した情報提供 (ウ) テレビ・ラジオ等放送媒体による施設紹介 (エ) 新聞やタウン紙等紙媒体による施設案内



子どもアドベンチャー2017



GW 勾玉作り教室



ダイヤモンド富士

(2) 体験学習事業

項 目	目的・内容
ゴールデンウィーク体験教室	<p>ゴールデンウィーク期間中に行う子ども向け・親子向けの体験教室 (火起こし教室5/3、勾玉作り教室5/4、石器作り教室5/5)</p> <p>※いずれも当日申込み (定員は設定するができるだけ受け入れる)</p> <p>※「いそっぴゴールデンウィーク2018チラシ」等に掲載し広報</p>

「開港記念日」市民優待デー	<ul style="list-style-type: none"> ・ 6月2日の開港記念日に子ども向け体験教室 ※『土器コースター作り教室』を無料で行う ※開港記念日という横浜ならではの休日に親子で楽しんでもらう
キャンプ in 三殿台	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国指定史跡の遺跡公園である三殿台にテントを張り家族で一晩を過ごす ※弓矢撃ちや火起こしの体験も行い古代人の生活を体感してもらう ※7/21・22に開催（6家族限定・事前申込み）
夏休み体験教室	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夏休み期間中に行う子ども・親子向け体験教室 （土偶作り教室 7/15、土器作り教室 7/16、勾玉作り教室 7/28・8/17、石器作り教室 8/22、火起こし体験教室 8/中旬（子どもアドベンチャー）、夏の野焼き会 8/25、古代人体験教室 8/26） ※古代人体験教室：石器を使って果物の皮をむいたり、弓矢を撃ったりなど、遺跡に暮らした古代人の生活を体感する教室を開催
秋の体験教室	<ul style="list-style-type: none"> ・ 秋に行う子ども・親子向け勾玉作り教室 9/15
秋の土器作り教室	<ul style="list-style-type: none"> ・ 秋に行う中学生以上を対象とした土器作り教室 ※粘土こね 10/6、成形 10/7、みがき 10/8、秋の野焼き会 10/27
ひらひら凧作り教室	<ul style="list-style-type: none"> ・ 冬休みに入った近所の子ども向けに行う細い竹の枝に糸をつけ障子紙で小さな凧を作る 12/23
冬の野焼き会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1月に行うボランティア研修で作成した土器を野焼きする ※普及を目途に野焼き会に土器の持込を受け入れる。

※これらの体験教室はHPに掲載するとともに「広報よこはま磯子区版・南区版」等に掲載し広報する



土偶・土器野焼き



古代人体験教室 弓矢うち



キャンプ in 三殿台

（３）展示事業

項 目	目的・内容
土器作り教室作品展	土器作り教室の参加者が製作した土器を展示室で展示し、合わせて施文具や制作方法などを解説していく。11月実施

（４）グッズ制作事業

項 目	目的・内容
-----	-------

缶バッジの製作・販売	三殿台考古館オリジナル缶バッジを製作し、販売する。
土器片ペンダントの製作・販売	土器片ペンダントを製作し、販売する。 ※H28年度よりベンガラで赤色塗彩したバリエーションを販売。
オリジナルクリアファイルの製作・販売	三殿台考古館オリジナルクリアファイルを製作し、販売する。



土器片ペンダント



缶バッジ

※三殿台遺跡の普及と関連グッズの販売促進を目途に H30 年度より三殿台考古館HP上で関連グッズの通信販売を行う

4 施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

三殿台考古館の施設維持を行う

（1）三殿台考古館の管理

（ア）経常的な維持管理

施設内の清掃・草刈り・樹木の剪定を行う。また、復元住居・住居跡保護棟・展示室を良好な状態に保つために業者によるメンテナンス等維持管理を行う。特に老朽化が著しい復元住居の安全対策を継続するとともに修繕・建て替えについて設置者と検討・協議する。

（イ）開館時間の拡大

本年度も午前9時から開館し、4月～9月は午後5時まで、10月～3月は午後4時まで開館する。一方、職員の施設内の定期的巡回などの危機管理対策を実施する。また、車椅子やベビーカーでも利用しやすいようにするため、階段スロープ化等の実施について設置者と検討・協議する。

（2）飲料販売

敷地内に自動販売機を設置し、飲料を販売する。